

# カボチャ団体による陳情から 100年 JR石北線活性化を考える

## 遠軽フォーラム



安彦良和「カボチャ団体の陳情」

1924年11月、延期とされた旭川－遠軽間の鉄道建設計画の再開を訴えるために遠軽村から52名が上京しました。

彼らは省庁や政治家に対し、「鉄道がないため米が高くてカボチャしか食べられない」として、鉄道の必要な地域の実情を訴えました。その陳情団は「カボチャ団体」として新聞や雑誌で話題となり、翌年工事は再開されることになりました。

今、石北線はJRが単独では維持困難とし、存廃の岐路にあります。100年前の先人から学び、石北線の活性化を考えます。

10/20

15:00～

16:30

日

**場所** 遠軽町芸術文化交流プラザ 大ホール

**定員** 50名

※多目的室4・5から変更になりました。

**申込・問** 遠軽町総務部企画課 ☎(0158) 42-4818

### カボチャ団体特別展

**期間** 10月19日(土) ～ 11月10日(日)

**場所** 遠軽町芸術文化交流プラザホワイエ2

**内容** 郷土館所蔵のカボチャ団体資料を展示

**問** 遠軽町教育委員会社会教育課 ☎(0158) 42-2191

同日開催の「JR石北線で行く秋の遠軽町満喫日帰りツアー」（北見駅発着、定員20人）の参加者もフォーラムに参加する予定です。ツアー、本フォーラムとも北見市のNPO法人「オホーツク鉄道歴史保存会」と「遠軽町石北本線利用促進協議会」が共同で開催するものです。

遠軽町の未来のために、みんなで守ろう

石北本線!